

睡眠時無呼吸症候群(SAS)

睡眠時無呼吸症候群とは、気道の閉塞などの原因で、睡眠中に何回も呼吸が止まる状態(無呼吸)を繰り返す病気です。いびき、起床時の頭痛、日中の眠気、倦怠感などの症状がある他、高血圧や脳卒中などの循環器疾患、糖尿病などの合併症を引き起こすこともあります。そのうえ、日中の眠気のため、居眠り運転による交通事故などを起こしやすいとも言われています。ですが、治療法も確立されていますので、患者さんに合わせた適切な検査・治療が必要となります。



日中の眠気



熟睡感がない



大きないびき



起床時の頭痛

どのような検査が必要なのか？

睡眠時無呼吸症候群の原因や重症度を調べたり、治療方法や処方を決めるためには十分な検査が必要です。患者さんのご自宅で行える簡易検査や入院していろいろなセンサーを取り付けて詳細に検査するポリソムノグラフィー(PSG)検査の2種類です。

簡易検査とは

問診を行って睡眠時無呼吸症候群が疑われた場合、まずは自宅で出来る簡易検査を行います。自宅で出来る検査です。

モニターをつけて一晩寝ていただき、睡眠中の無呼吸がどの程度起こるか、おおよその判定を行います。

ポリソムノグラフィー(PSG)検査とは

簡易検査にて、さらに精密検査が必要と判断された場合に、病院で一泊入院して行う検査です。

多数のモニターをつけていただき、睡眠中の無呼吸の程度だけでなく、睡眠の状態を全体的に調べます。

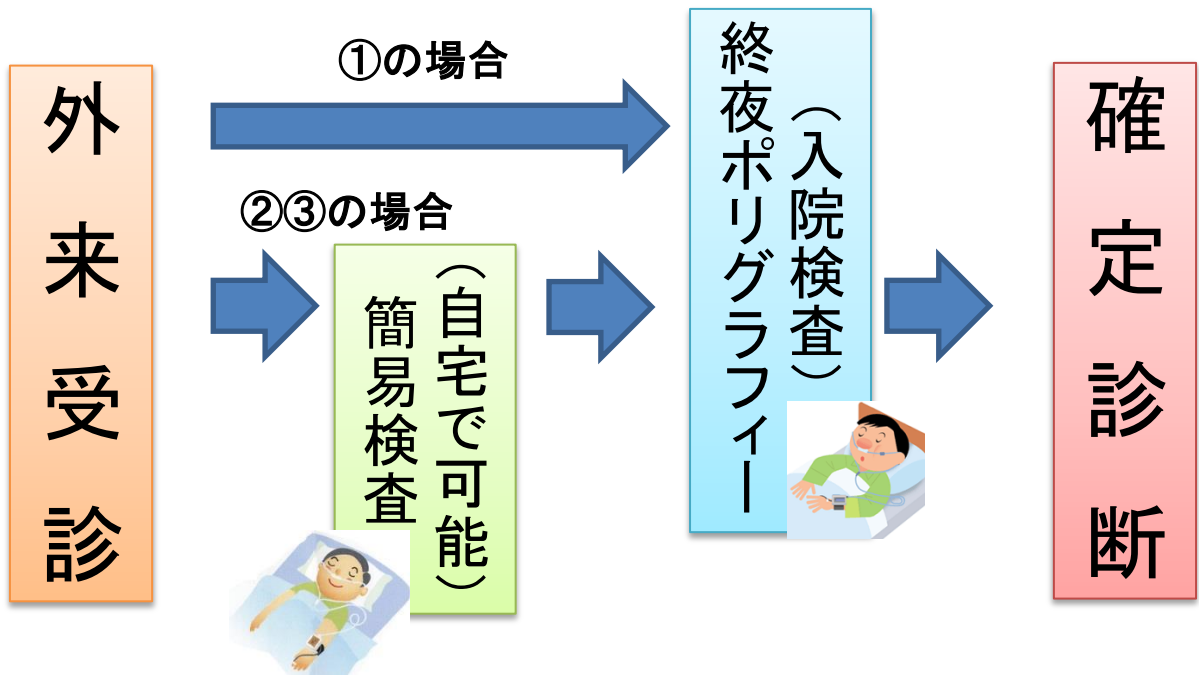
検査の流れ

地域の医療機関からご紹介

- ①簡易検査を実施後のご紹介の場合は、当院にて終夜ポリグラフィー(PSG)の流れとなります。
- ②簡易検査を実施していないご紹介の場合は、簡易検査を実施し終夜ポリグラフィー(PSG)の流れとなります。

ご紹介でない場合

- ③問診・診察後に、簡易検査を実施し終夜ポリグラフィー(PSG)の流れとなります。



睡眠時無呼吸症候群の治療

治療は、睡眠中CPAPという機械を装着します。睡眠中の気道閉塞を防ぐために、専用のマスクを取り付け機械から陽圧を送り込むことにより、無呼吸を取り除く治療法です。